

生ごみ自家処理 こうしてためています！

港区3R推進行動会議

委員 藤野珠枝（東京都港区在住）



let's try 段ボール de コンポスト〈港区版〉

春に誘われ新しい段ボールコンポストを仕込みました。70ℓビニール袋2枚を段ボール箱の内側に着せ、落葉と、^{かき}熟成後コンポストを篩ってフレイに残った貝殻や鶏の骨などを入れ、全体をかサツとがき混ぜて基材OK。この真ん中に2～3日分溜めてしまった生ごみを入れ、基材で覆い、古シャツ製のキャップをかぶせて完成です。

ついでにこれまでの段ボールコンポストをビニール袋ごと取り出して向きを変えながら攪拌、その温かさに「春だねえ、いよいよ元気になるねえ」と声をかけてしまいました。傍らのプランターでは種がこぼれて芽生えたレタスや、調理時に切り落とした根から育った小松菜が食べ頃になっています。台所とベランダがつながる生活の中の小さな「パーマカルチャー」が面白くて「ベランダ段ボールコンポスト」と「調理時の野菜くずからの野菜づくり&緑のカーテン」を14年程続けています。

2007年に私が暮らす東京都港区の「みんなと3Rスタートフォーラム」での紹介がきっかけで、2009年から港区3R推進行動会議主催の段ボールコンポスト講座の講師を務め、マニュアルづくりに参加、区民の皆さんに港区版ベランダ段ボールコンポストをお伝えしています。

港区版の特長はビニール袋を使うことです。空気や水分の行き来が上部からだけとなるので「トブ臭くなる」との声もあるのですが、集合住宅居住者が9割の港区ではベランダでやるのが前提なのでメリットの方が多く、中身の水切りとセットで伝えています。水切りと言っても「生ごみは排水口に入れずに別容器に」「果物の皮やコーヒー・お茶殻などは玄関やトイレに置いて自然のアロマを楽しみながら乾燥させて投入」などの経験を紹介。ビニール袋使用の利点は扱いやすいことと虫がつきにくいことが一番です。

講座は親子講座や生ごみの少ないお弁当講座 or ベランダ野菜づくり講座とのセットなど、毎年「楽しく実践」の工夫があります。始める前と実践後の2回セットで、実践中に投入物を書き出したり重さを測ったり、やってみての発見や困ったこと、工夫などを共有する機会を設けています。今ではこの講座で段ボールコンポストを始めた方々が一緒に講座を担い、現在、卒業生で「(仮称) だんほの会」を立ち上げつつあります。これからも市民と行政とが連携して生ごみを資源に変え、緑があふれるわが町になったら素敵ですね！ 台言葉は『段ボールコンポストに失敗は無い』。

*マニュアルはインターネットで入手できます！

<http://minato-3r.info/blog/manual.pdf>（「段ボール de コンポスト マニュアル」で検索してください）